ゴルフ狂人生

97 年、（株）電通を退職、2 年ほど寄り道をして、楽しい老人生活を目指して挑戦中。

まちづくりグループ
游民　中尾順二

わたくしが広告の世界へ入った頃は（1959 年）、ラジオが全盛。他には新聞と月間雑誌（文芸春秋、主婦の友など）があるだけでした。
60 年代に入って、テレビが登場一気にマスコミが盛り上がり、ＰＲ時代を後押しするように、週刊誌が登場、ラジオもＦＭ、マンガ本などが出て出版ブーム。マスコミ全盛時代に突入していきました。
入社して間もなく出会ったのがゴルフです。当時会社の部長以上は、全員ゴルフ場の法人会員メンバーでした。また、新入社員研修旅行では、当時出来上がったばかりの戸塚カントリー倶楽部（投資をしていた）の見学があり、ゴルフ場で始めて食事をしました。そんな事ですから世間に比べて、ひと足早いゴルフブームの気配が社内にはあったのです。

2～3 年して営業に転属、上司に淀屋橋勧銀ビル屋上のゴルフ練習場に連れていってもらったのが始まりです。それからは、休日はゴルフ練習場に朝から晩まで入り浸りです。ホームは、南海電車なかもず野球場横の打ちっぱなし。ラウンドはＰＬゴルフのショートコース。　物足りなくなって、高槻ゴルフ場（河川敷き）へ朝星夜星。当時の事ですから朝一番電車に、ゴルフバックをもって乗ると、市場へ買出しに行くおっちゃんが、それなんや、どないつかう、おもろいか、と五月蝿いことでした。それでも結構優越感みたいなものを感じたものです。
すべてが我流で、唯一ゴルフダイジェスト誌の、連続スイング写真が教科書で、実践は同期に甲南大ゴルフ部がいて、マナーを含めて教育してくれました。
2 年位してハンデ１２の認定を受け、はじめて本コース西宮カントリー倶楽部でプレーしました。しかし、ボロボロで練習場の球筋なんて何処へやら散々な目にあってがっかりしたものです。それから少しして、はじめてプロとラウンドする機会が出来ました。確か日本プロ選手権で優勝してまもなくの、今井昌雪（改名して将行？）プロです。宮崎カントリー倶楽部で、6 ホール同行してもらいました。彼曰く、中尾さん僕の言うとおりフォームを変える気がありますか？と、当然変えます！では明日朝 5:00 起きでゴルフ場の練習場へ来てください。彼は朝の便で東京へ帰る時間まで教えてくれました。それは今までのスイング

とまったく異なるものでした。
1時間ほどしてようやくボールがクラブヘッドに当たるようになったとき
そのまま練習を１ヶ月続けると、必ず良い結果が出ますよ。
およそ１ヵ月後、琵琶湖カントリー倶楽部で、最終ホール・Wボギーで７３
いまもこれがベストスコアです。これが＜狂＞のはじまりです。

◆仕事柄、沢山のプロとラウンドする機会に恵まれました。
初めての外人プロは、ビル・ロジャースです。アメリカ人・テキサス生・
1981年全英オープン優勝、素手でクラブを握る格好いい奴でした。
無茶苦茶な英語で、結構楽しく学ぶことも多いラウンドでした。

すごいなぁーと思った最初の人は、意外にも大迫たつ子さんでした。
あるプロアマ競技で一緒してもらいました。スタートして5番に来たとき
三田レークの練習生が3人、プロに見学させていただいて宜しいでしょうか？
いいですよ。答えた大迫さん、今までの5ホール何だったの？・・・
物凄いティーショットです。それから18番で手前ピンに30センチ足らずバンカーに入るまでミスショットは全くありませんでした。本人曰く、今日は本戦並みのラウンドでした。お客様にはご迷惑をおかけしました。と
それ以前にも同様の事がありました。奈良の名阪国際ゴルフ倶楽部（現在Ｊ＆Ｐカントリークラブ）ここは豪州ピーター・トムソンの設計です。オープン前の取材でゴルフダイジェスト誌がゴルフをしている写真を撮りたいと申し入れましたが、ゴルフの写真はＯＯ社に言ってくれ。本戦以外の写真は掲載しないと。　両者とも、自分のゴルフの究極の姿は本戦にある。それは、たっぷりと時間をかけて体を調整し、心の統一も出来た状態でするゴルフを、お客様に見せるという。一流プロの誇りみたいなものを感じました。
◆ついでにもうひとつ。ＰＧＡマスターズトーナメントでは、観客の事をパトロンと呼びます。これは、(観客あってのトーナメントである) と言う考え方で、ＰＧＡの選手たちには徹底しています。宮崎フェニックスのプロアマでトム・ワトソンと一緒したときのこと、彼ほどの偉大なプレイヤーでも、たまたま昼食時に同伴者の奥様がレストランの外に居るのを見つけて、近くの椅子を取りに行き我々の席に案内しました。これには一同驚きました。とにかくＰＧＡプレイヤーは観客を大切にします。プレイの後も必ず子供たちにサインをします。将来のゴルフ・ファンやプレイヤーを育てているのです。
アメリカの風土もありましょうが、他のスポーツでも同じ現象がみられます。
あの新庄選手も大リーグから帰ってきてから、フアンに親切になりました。

◆今時の出たがりで、ひとつ勝ったら一流気どりプロ、ちょっとミスをすると大げさに悔しがり、首をかしげる、投げやりになる、真剣味の無い姿を見せる。
これが年間、数千万を稼ぐと思うと、やりきれなくなるときがあります。

お客さんは、お金を払って即ち賞金を出して、プロの技を見に来ているのです。
悪いときには我慢をしてどう凌ぐのか、そんなところを見せるのもプロの仕事です。そしてマナーも見せなければなりません。
（ちなみに男子プロのトーナメントＴＶ冠料は、3～４億円位です）
また、ご存知と思いますが、ＪＰＧＡで賞金王になった豪州のマッカイという選手がいました、オーストラリアで＜Ｓ×Ｌトーナメント＞を開催したとき
ゴルフ界の主要人を集めた昼食会で、マッカイの賞金王の話題を出しましたが、小銭稼ぎのマッカイと痛烈な言葉が出ました。強敵居並ぶＰＧＡより、コースセッティングのやさしく、戦いやすい日本を選んだ事で、オーストラリアでは一流の仲間入りはさせて貰えなかったようです。
韓国、日本の選手を見るにつけ、家族ぐるみでお金稼ぎが先行している態度にも、悪寒を感じているのは私一人ではないと思います。
宮里藍ちゃんが、スコアが悪くても＜明日はいいゴルフをお見せします＞と
インタビューに答えている。親御さんの躾の良さに声援を送りたくなります。
男子プロにも、言葉の勉強、世界に通じる技術、体力をもった器が、出てくるよう期待したいものです。

◆オーストラリア・サンクチュアリコープで 90，91 年、毎年１月にトーナメントを開催しました。初めの年に川岸良兼プロ、次の年に鈴木弘一プロと一緒しました。
16 年もまえになります。当時の川岸プロは、日本一の飛ばし屋でした。
サンクチュアリコーブのロングホールをすべてツーオンしました。僕のドライバーの位置から、彼のボールがはっきり確認できないほど飛んでいました。
ラウンド後青木プロにその話をすると、彼はバーディー２ホールだけか？
俺はツーオン１ホールで、バーディー３ホール。川岸勉強せい！と檄。
オーストラリアでも、ジャンボの次は川岸だろうと、評判は高かったのですが。
鈴木プロは、日本プロかオープンをとった２～３年後のこと、体を痛めて不調が続いている時でした。奥様もカートに乗って一緒しました。ゴルフ場のキャディーと距離感が合わず、アウトは１オーバー、インに入って奥さんが距離を指示。途端にバーディーの連続、むかし彼のバッグを担いでいたそうです。
奥様のカムバックをお勧めしましたが実現はしなかったようです。
彼は、体を痛めたプロの生活の不安定さを、しみじみ嘆いていました。

◆身体を痛めたプロでは、生駒佳代子と一緒しました。確か腎臓で激しく身体を使う事は無理なようです。オッパイが大きく、色白美人、大きなスイングが美しく、すばらしい球を打ちます。強かったです。うっとりしました。
最近は時々解説でＴＶに出ていますが、もっと活躍ができた惜しい人です。

◆ＮＨＫが毎年、年末助け合いチャリティー・プロアマゴルフをやります。

木村敏美プロ、森本多津子プロ、松本恵プロと一緒しました。森本プロは、東城陽の所属で、僕の知人で城陽のクラチャンで、いま関西ゴルフ連盟の理事をしているW氏と懇意にしていました。決して他のプロに引けをとる様なゴルフでは無いのですが、華やかなステージに出る事はありませんでした。勝負の世界で生き残るためには、実力以外に何か特別なものが必要なのかも知れません。松本プロも同様でした。ただ、彼女は僕と回ったあとすぐに結婚しました。永久賞金を獲得しました。

木村敏美プロは、ご主人がペット屋さんで、確か２人のお子さんがいます。
体型どうりの大らかな性格のようで、楽しいラウンドをしました。当日僕は絶好調で、最終ホールでプロに１打差でした。ロング２打目プロにグリーン狙いをけしかけました。かなりのショットでしたが１ｍショートで池。上がってダボ。手堅く僕はパー。１打差の勝ち！　騙されたと悔しがりましたが、スコアカードに敗者のサインをして貰いました。翌年彼女は賞金王になりました。

◆翌年賞金王では、服部道子プロがいます。彼女とはサントリーのプロアマでした。若い人たちが出てきて、パットの不調もあって成績が低迷していた時でした。オフにＫ男子プロに師事していることが報じられていました。
一緒に回って本人が言うほどパットが下手とも思えません、ショットも若い人達と遜色ありません。食事のとき相手をわきまえずに、意見を言いました。
まず、貴女はアマ時代、全米アマをとった。日本を越えて№１であった。
それが、上手と言えども世界を知らないＫプロに師事するとはおかしい。
世界の服部を思い出して戦いなさい。日本のプロなんて敵と思うな！
翌年、アメリカ人のコーチについて賞金王になりました。
ひそかに、僕の助言を聞き入れたのではと思っている。友達がダックスの顧問をしているので、一度聞いてみようかと思っている。

◆意見を言って失敗したのは、グラハム・マーシュです。
よみうりＧＣ，山の原ＧＣの２回一緒しました。よみうりの時、ラウンドの後半、彼のスイングがかなりアウト・イン・サイドのように思え、僕もその傾向が強いので＜その点気にしなくてよいか？＞聞いてみた。彼は、それは修正が必要である。いま自分の悪い癖が出ているので修正する。と　翌日の本戦
彼はボロボロで予選落ちしました。余計な事を言ってしまったと後悔しました。
彼は日本語も達者で優しい人です。日本のゴルフ界の発展に尽力してくれたことに、感謝していますよと言ったら喜んでいました。

◆食事会で一緒した人達のこと
アメリカ・フロリダ州にラビーンズＧＣという所があります。日本のある不動産会社が買収しました。此処は古いゴルファーならご存知と思いますが、マー

ク・マッカンバーが所有していたカントリークラブです。マッカンバーは、たしか全米プロに優勝、やんちゃな小僧的キャラクターで、飛ばし屋で、愛嬌のあるプロでした。いまもアメリカ・チャンピオンツアーに時々出てきます。
日本でもゴルフ会員権の販売をするので、披露のイベントを企画しました。当時アメリカで活躍中の小林浩美とカーチス・ストレンジ対マッカンバーとオーストラリアの美人プロ（名前が出てこない）のツーボール・フォーサムをテレビ朝日で放送しました。小林さんは、アメリカ１年弱。メンバーの名前に圧倒されてかショートパットが入らず、食事の後、高橋五月解説者がコーチしていました。
＜パットのとき、カップから自分のボールまで目線でラインをつくる。そして打つ。小林さんは打つとき頭の位置をボールの後ろに置くようにちょっと首を右に回す。この動作でせっかく目線でつくったラインから方向がずれる。＞

これで後半は回復しました。食事会は普通のゴルフ場の昼食バイキングで随分盛り上がりました。でかでか料理の日本の接待ゴルフを反省しながら楽しんでいました。

もうひとつ・・・。兵庫県のあるゴルフ場がオープンしました。オープン記念で、青木功、岡本綾子対セベ・バレステロス、ノイマンの４ボール４サムをやりました。食事会は例によって、でかでか料理ですから硬い雰囲気で、面白くもなんともなく終了。ただ試合中にセベと青木がティーグランドの灰皿（１ｍ位の高さ）に、サンドウエッジでボールを入れあう遊びにはびっくりでした。
また青木さんは岡本さんにパットのとき、芝目の分からないときは、ボールマークをグリーンフォークで直しながら判断するのよと教えていました。
＜ボールマークの周りをフォークで起こすと、芝目が見えてきます＞

◆そして僕にとって最大の同伴者は、トム・ワトソンです。
1995 年 11 月 15 日・フェニックス・カントリークラブでラウンドしました。
プロアマで 100 人余の観客を連れて回ったのは初めてで、有名プロの気分ですとにかくショットが正確です。全部ピンに向かって飛んでいきます。
でも、テレビで見るようにショートパットは、時々外していました。
アドバイスは、すべてのショットでトップの位置を同形することでした。
ＣＶＶのホームページ（まちづくりチーム）に、その時の写真を掲載してもらっていますが、わたしの宝物です。

◆最後に＜狂＞の極みを！
池亀さんとの出逢いなどでご紹介しましたが、1990 年国際花と緑の博覧会でゴールデンベル・パビリオンを企画しました。ゴールデンベル＜連翹＞とは、オーガスタ・ナショナル・ゴルフクラブ、12 番・ショートホールの愛称です。

当時は、まだＣＳ放送は無く、ＰＧＡトーナメントの放送は深夜ばかりでした。
4 月 1 週オーガスタＧＣで行われるマスターズは、必ずＶＴＲを撮って見ていました。花博の仕事をする事になって、どうしたものかとあれこれ考えて居た時でした前夜の録画を大胆にも会社で再生していました。
オーガスタは、すべてのホールに花の名前がついていること、池や小川の水は着色していること、花はトーナメントに合わせて開花するよう氷で調整していることなど、解説を聞いているうちに＜そうだ！これのそっくりをつくって見よう＞と思いました。
企画部に相談すると＜う～んエッヘッヘ＞で終わりです。
ちょっと資料など集めて、２～３のスポンサーに相談をしてみると反応がいい！よしやるぞ！奇妙な企画が進み始めました。1 週間で 3 社のスポンサーが決定しました。本気になって来ました。ＴＢＳ放送にオーガスタの許可をとる相談に行きました。アメリカでもユニークな集団として有名で、そんな許可は無理でしょうと。会社に帰ってみるとまた 1 社スポンサーが決定。もう引けません。ゴルフ界の大御所Ｈ・Ｏ氏に相談しました。
丁度オーガスタのアジア担当の人と合う約束がある。紹介するけどその話彼は知らない事にしてくれ商売が潰れる。と
あたって砕けろです。ホテルオークラで企画説明をしました。本国に帰って相談し返事する。長かった 2 週間後オーガスタでもう一度聞きたい。プレッシャーのかかる一人旅は寂しかった。機中プレゼンの練習ばかりでスチュワーデスさんが大変ですね。プレゼンが終りコミッティ会議にかけＯＫが出た。

それからが大変で、鹿島池亀さん登場で、寸分違わず見事なオーガスタ 12 番ホールが出来上がりました。5 万人余がワンオンに挑戦し約５％が乗せた。
評判もよく、スポンサーも満足。　ゴルフ狂人生最高のプレイでした。

今も、月 3～4 回はプレイをします。六甲国際と三田のメンバーです。
六国はコースが長くてきついので、マイサイズの三田をホームコースにしています。01 年と 02 年にシニア選手権を取りました。会社や社会に名前の残せなかった僕が、三田ゴルフクラブのロビーに名前が残りました。（家内はあほらしいの一言です）今年からグランドシニア選手権を取るべく挑戦しています。
以前のように猛練習はやめました。練習は５０％くらいにして、あとの５０％は、いい本を読む、いい絵を見る、いい音を聴く。そんなことでいいゴルフが出来るような気がしています。従って、ＣＶＶのまちづくりグループの活動は、ゴルフの上達に欠かせないものだと思っています。
まだまだ続く＜ゴルフ狂人生＞頑張ります。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。コトン！

中尾順二さんのこと　　酒井　貞　061111

中尾さんの昔の部下だった男が、広島にいる。今も、つきあいがある。その「彼」が中尾さんのことを「ギャング」と呼んでいる。「彼」から見れば、電通の偉いさん、怖かったのかも知れないが、ぼくにも、わかる気がする。

ぼくと中尾さんのお付き合いも、しがない建設コンサルトの分際からみると、電通の偉いさんは、雲の上の人だった。ぼくの「CVV な男」のプロフィールでも紹介されているのだが、主として旧建設省がらみの仕事で共同作業した上記の「彼」の上司としての存在だった。「曾根崎地下駐車場」のこと、「花博」のゴルフコースなどのコンセプトが、聞こえてきた。なかなか面白いことをいい、やる人がいるなあと思っていた。それが中尾さんという電通の部長であることが、「彼」とクライアントを通じて、追々わかってきた。

それから、隅野さんの場の提供による CVV サロンでの出会いで、いわば初めてお目にかかった。ぼくも、そうだが CVV からみたら、全くの場違いの男。

ぼくは建築系出身、広告、マーケットの専門家の中尾さんが、勝手な議論を吹きかけた。そんな議論を通じて、消費者を相手の広告、マーケッティングという仕事の世界は、軟らかく広い発想と言葉で、人の心を「ギャング」することか、とわかってきた。「彼」が「ギャング」という意味が理解出来た気がした。CVV の立ち上がりのころ、いわば場違いの二人の男と隅野さんという土木の専門分野からの議論、談論風発が、いろいろ混ざり合いながら、単なる専門家 OB 集団ではない社会性を踏まえた CVV の方向性をにじみ出させたことが思い出される。

その後、まちづくりグループのコンセプトづくりで、また、人の心を「ギャング」しようという観光の提案など、沢山なことを教えてもらった。まちづくりグループの参加者の思いも同じだろう。

そして、中尾さんは、この CVV と MID グループを、こよなく愛してくれているようだ。そして、最近は、ゴルフ三昧のかたわら、読書三昧でもあるらしい。MID 例会で本の紹介も。

体を鍛えて、ゴルフ三昧、読書三昧で心をさらに鍛えて、メールネームの「遊民」を楽しんでいる。こんなところが、中尾さんのプロフィール、もっと楽しく、やりましょう。よろしく。